

リコーグループは、より信頼性の高い情報開示を行うため、環境負荷データと環境会計データについて第三者検証を受審し、環境経営報告書を通じてステークホルダーの皆様に提供しています。また環境経営の改善に役立てるために、2002年度の検証結果をポジティブ・フィードバックし、環境経営情報システムの適用範囲の拡大などの改善に取り組みました。これにより、今年度の評価は向上しています。今後も、第三者検証を有効活用し、継続的な改善を推進していきます。

参考所見(全文)

BVQIは当該数値等の検証過程で、リコー社会環境本部および検証実施サイトに環境活動についての気付きや意見を報告してきた。それらの報告を含めて所見は以下の通りである。

1. 環境負荷情報

主なデータは拡大した環境負荷情報システムにより収集、集計され信頼性がより向上した。

報告書のデータが多岐にわたるために、非生産系グループ各社及び海外サイトでは一部データがエクセルによって集計され本社へ報告されている。これらシステム及び運用上以下の点に改善が見られた。これらのこととは継続的改善として評価したい。

- 海外生産会社(米国REI、英国RPL、仏国RIF)への環境負荷情報システムの運用の拡大。2003年度からREIが、2003年度下半期からRPL、RIFが運用を開始した。

環境経営報告書 第三者検証報告書

株式会社 リコー
代表取締役社長 梶井正光殿

ビーピーキューアイ ジャパン株式会社
執行役員 中島 勤

検証の目的
ビーピーキューアイ ジャパン株式会社(BVQI)は株式会社 リコー(リコー)がリコーの責任の下に発行するリコーグループ環境経営報告書2004(報告書)の数値及び回答(当該数値)のうちリコーから要請のあったものについて報告書に記載する目的にあった信頼性があるかどうかを検証した。

検証実施サイト
本社、社会環境本部
リコー厚木事業所、
リコータクノシステムズ(株)本社、東京支店、
Ricoh UK Products(英國 RPL)
のるサイト

統括機器
OA機器の製造
OA機器のメンテナンス
OA機器・機器関連の消耗品の製造

検証内容
本社

- データを収集、集計するシステムの信頼性と運用の適切性
- グループの2003年度上期収集データの正確性、各事業所からのデータとの整合性各工場、事業所
- 2003年度上期データの収集、データベースへの入力、報告方法の適切性
- 収集データのクオリティー、検証の方法

感想
BVQIは上記の検証の結果、以下の通りの意見を述べます。
1. 報告書に記載された当該数値の収集、集計システムは信頼性があり、適切に運用されている。データのクオリティーも高く、整合性も取れており当該数値は報告書に使用できる信頼性を備えている。
2. 昨年に比較してシステムの運用範囲が拡大し、正確さも増している。2003年度の報告書で指摘した課題も改善され、更に信頼性が向上している。

- 各サイト専任者によるデータ収集、集計、社会環境本部への報告

報告値に僅かな差異が見られた。

【今後の課題】

- 本社各担当者によるデータ再検証その結果、昨年と比較して集計の信頼性は向上したが、報告書の論旨に影響するレベルではなかったものの集計計算上の誤り、端末データ入力時の入力ミスによる差異があり、修正を要求した。また、有効数字に関するルールが明確でないために本社社会環境本部と各工場、事業所の

2. 温室効果ガス(CO₂)排出量

CO₂の排出量の計算方法は明確に規定されている。サブから本社への報告は燃料等の物量で行われ、所定の換算係数により本社でCO₂に換算されている。

3. 環境会計

サイトの専任者は環境会計ガイドラインを理解しており、データの収集・処理に対して適切であった。本社からの情報が各工場、事業所にフィードバックされていた。また、全体の活動が各サイトの比較で理解できるような表も作成されていた。

経済効果の項目の特定やコストの分配についての前提条件(実務的な細部の判断基準)の多くが個人のノウハウとして管理されていた。共有化して記録として残すと更に良いと思われる。

【今後の課題】

- 前提条件の記録化と共有化

4. 2003年度改善事例

2003年度の環境負荷削減の目標に対して順調に推移しており、この努力を評価する。

例)

- 製品のLCAによるエネルギー使用量およびCO₂排出量
- 廃棄物の総発生量、総排出量、再資源化率
- 製品使用時におけるオゾン・粉塵・スチレンの排出量
- グリーン購買品の拡大と購入量の拡大
- 土壤汚染の計画的な改善実施により地下水の塩素化合物の減少

5. 内部検証

昨年度の指摘事項への対応として本社でデータ再検証が行われている。数値の確認後それでもミスが起こることが判明しており今後の課題として対応が必要である。

【今後の課題】

- 原因の特定とシステムのレビュー

BVQI検証済データ一覧

ページ	番号	名 称	検証番号
p.15	—	リコーグループ環境行動計画(2002年度～2004年度)/進捗状況(2003年度実績)	(1)
p.26	①	紙の総販売量に占める再生パルプ利用率(質量比)	(2)
p.29	—	事業活動全体のエコバランス(2003年度)	(3)
p.33	—	2003年度 リコーグループのコーポレート環境会計	(4)
p.39	①	《日本》エネルギー消費量の推移 白黒複写機・複合機	(5)
	②	《日本》エネルギー消費量の推移 カラー複写機・複合機	(6)
	③	《日本》エネルギー消費量の推移 白黒・カラープリンター	(7)
	④	《日本》エネルギー消費量の推移 ファクシミリ(複合機含む)	(8)
	⑤	《グローバル》QSU技術によるCO ₂ の削減量	(9)
p.43	①	《グローバル》再資源化率 複写機	(10)
	②	《グローバル》再資源化率 トナーカートリッジ	(11)
	③	《グローバル》回収実績 複写機の回収台数	(12)
	④	《グローバル》回収実績 トナーカートリッジの回収質量	(13)
p.44	⑥	前身機(新造機)と再生機のLCA比較(CO ₂ 排出量)	(14)
p.48	①	《グローバル》製品1台あたりの化学物質使用量推移(2000年度比)	(15)
	②	《グローバル》カラー機使用時における騒音推移	(16)
	③	《グローバル》製品の環境影響化学物質排出基準達成状況	(17)

p.53	①	国内リコーグループ(生産)の2010年度に向けてのCO ₂ 排出量削減目標達成のシナリオ	(18)
p.54	②	《日本》エネルギー使用量 リコーグループ(生産)	(19)
	③	《日本》エネルギー使用量 リコーグループ(非生産)	(20)
	④	《日本》主要なエネルギーの使用量内訳 リコーグループ(生産)	(21)
	⑤	《海外》エネルギー使用量 リコーグループ(生産)	(22)
	⑥	《リコーグループ全体》CO ₂ 以外の温室効果ガス排出量(CO ₂ 換算) リコーグループ(生産)	(23)
p.56	①	リコーグループ全体の輸送におけるNO _x 、SO _x 排出量	(24)
p.57	①	《リコーグループ全体》廃棄物総発生量 リコーグループ(生産)	(25)
	②	《リコーグループ全体》水の使用量 リコーグループ(生産)	(26)
p.58	③	《日本》廃棄物再資源化率/総発生量/総排出量/最終処分量 リコーグループ(生産)	(27)
	④	《日本》廃棄物再資源化率/総排出量/最終処分量 リコーグループ(非生産)	(28)
	⑤	《海外》廃棄物再資源化率/総発生量/総排出量/最終処分量 リコーグループ(生産)	(29)
p.61	①	《リコーグループ全体》2003年度環境影響化学物質の使用・排出量 リコーグループ(生産)	(30)
	②	《リコーグループ全体》リコーグループ(生産)	(31)
	③	《リコーグループ全体》公害防止関連項目(NO _x 、SO _x 、BOD)の排出量推移 リコーグループ(生産)	(32)
p.63	①	リコーグループ国内生産関連事業所 地下水汚染調査結果と浄化状況(2004年4月現在)	(33)
p.64	②	リコーグループ海外生産関連事業所 地下水汚染調査結果と浄化状況(2004年3月現在)	(34)
p.75	—	サイト別データ	(35)